

9月・10月の管理ポイント

平成18年8月25日



株式会社 トモグリーンケミカル

今年は梅雨明けが遅く(東海地方で8月に入ってから)、9月に入っても厳しい残暑が予想されます。芝生の生育期に入るまでは、糖・アミノ酸・光などを組み合わせて状態を維持していきましょう。

ホームページアドレス
<http://www.tomo-green.com/>

第83号



グリーンメカ・マリンパワー・光合成細菌

芝の呼吸過多による糖消費と土壌菌数の回復に...

残暑の厳しい9月は高温による芝の呼吸量が増加し、糖含有量は減少します。また、10月に入るとベントの生育期となり、糖の消費量も増大します。

糖が少なくなると特に根に影響を与えるので、グリーンメカでしっかり補給していきましょう。

7月、8月の高温ストレスから、少しでも早くベントを回復させるために、土壌中の硫化水素など根に直接影響を与える有害ガスを軽減させましょう。光合成細菌とマリンパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌の定着を目指します。

使用量：グリーンメカ 5~10ml/m² マリンパワー 2~4ml/m² 光合成細菌 1~10ml/m² 散布水量 1L/m²以上



サッチ・リムーバー

サッチ層の除去には...

9月の更新作業時に光合成細菌+サッチ・リムーバーで、グリーンのサッチ層を軽減しましょう。

他の微生物由来のサッチ分解剤とは異なり、酵素製剤なので土壌中でも安定して働きます(又、農薬との混用もOKです)。分解されたサッチは、糖類やチッソ源となり、植物や他の微生物のエサとして再利用されます。

使用量：1~2g/m² 0.5L/m²散布 使用回数：月1~2回



バイボン乳剤・ダイアジノンSLゾル

害虫多発生時のローテーション散布の一剤として...

9月、10月はスジキリヨトウの3化期(クシナシスジキリヨトウは3,4化期)幼虫の発生をはじめ、タマナヤガ幼虫、ツトガ幼虫、コガネムシ幼虫、シバオサゾウムシ幼・成虫と多種の害虫が活発に活動する時期です。

殺虫剤の散布回数が増える時期ですから、薬剤の耐性予防としてローテーション散布を行ないましょう。

バイボン乳剤は、DDVP+エトフェンプロックスの混合剤なので、速効性で効果が的確に現れます。

又、更新作業後は、コガネムシ類幼虫対象にダイアジノンSLゾルを処理しておきましょう。

使用量：バイボン乳剤 2000倍 0.3L/m²、ダイアジノンSLゾル 250倍 0.7~1L/m²



みみんず水和剤

ミミズの糞塚防止には...

9月、10月は、ミミズが活発に動き回り糞塚が多くなる時期です。特にアプローチ付近など、プレーヤーの邪魔になります。

使用する時は、降雨後や朝か夕方方の散布がお奨めです。

使用量：1000倍 2L/m² アクアグロ併用をお奨めします。



カラーマーカー®・L

9月から新発売

除草剤散布時の識別剤として...

食用色素を成分としてありますので、安心してお使いいただけます。

(従来の投げ込む粉体を液状にしました)

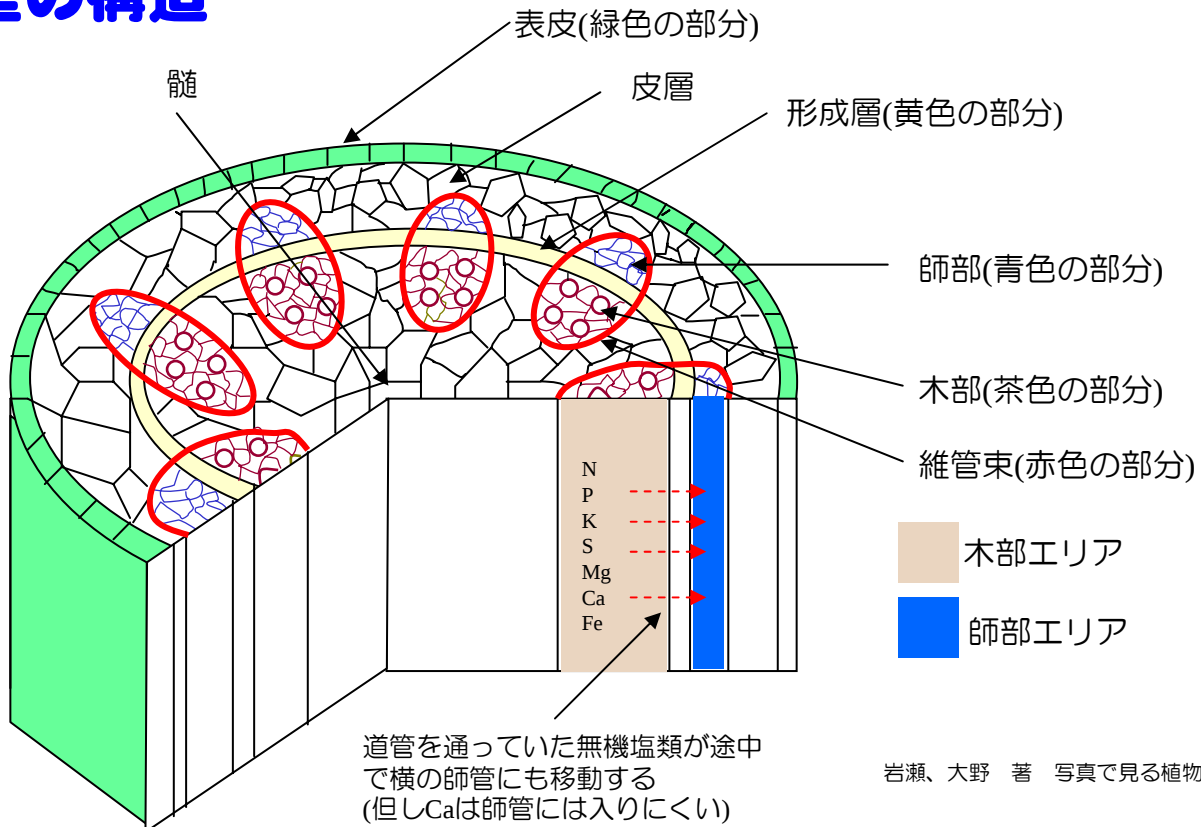
除草剤散布時の着色識別剤(カラーマーカー)として利用していただけます。

使用量：3000~5000倍 (倍率は芝生や主剤の色合いにより自由に加減下さい)

茎の構造と機能について

茎は、根で吸収された養分と水を葉まで通道し、葉で生産されたものを根やその他の部分に輸送する機能を持っています。

茎の構造



岩瀬、大野 著 写真で見る植物用語より参考

維管束は、水分の通路である木部と、養分が運ばれる師部からなります。木部には道管、仮道管などが通っていて、土壌から水分と一緒に無機塩類(N,P,K,S,Mg,Ca,Fe)が移動する。

そして、道管から師管(師部にある養分を運ぶ管)へと横にも移動する。

師部の中を通っている師管中の液の成分は、アブラムシの吻口を用いて採取した報告(1)では10~25%のショ糖が含まれていた。

またアミノ酸は0.03~0.4%で10種類以上含まれており、主な種類としては、グルタミン酸、アスパラギン酸などが挙げられる。

(1)アブラムシは吻口を師管の中に差し込んで師管中の液を吸う習性があるので、液を吸っているアブラムシの吻口を切りはなし、切り口から出てくる師管液を集める方法(植物生理学入門)